

竜 丘 村

第四号

発行人 木下右治
編集人 情報部
印刷所 株式会社龍共社
発行所 竜丘村公民館

経 過

学校の下の舊電氣事務所を
購入して圖書館にしたいとい
う希望は昨年から青年會の問
題となり公民館の委員會の話
題になつて来た。本年になつ
てこの希望が又青年會に再然
して来た。

益高める施設となり得るので
ある。
次に之に附随して公民館の
本部兼事務所が出来ること
ある。目下は學校を借用して
公民館の本部とし事務所とし
ているが、公民館の使命を思
う時獨立した本部兼事務所が
必要である事はいうまでもな
い。

村立圖書館設置具体化さる

竜丘の圖書

圖書はその
歴史に於て
その蔵書の
數に於て郡下で優秀である、
圖書館が立派であるといふこ
とは村の文化意識の高き事を
立証している。今後益々擴
充しなければならぬ。

なを次の事が出来る、目下
青年會の會合が學校を借用し
て行はれてゐるが、その會合
がたまたま夜の十二時になり
一時になり宿直の先生に迷惑
をかけてゐる。又冬期は火を
つがうのが非常に危険である
ところがこの建物が手にはい
れば、青年會の會場となり、
青年は思ふ存分討論をする事
が出来、ひさびさ青年會のみで
ある、この意味において政府

多田氏は「三万円以下では個
人には買はないが圖書館にす
るのなら十萬圓寄附して二十
萬圓にする」と答へた。敷地
百七十坪、建坪三十三坪半の
あの建物を二十萬圓で買うこ
とが出来ればさう高いものでは
無いと評價してよいと思ふ
「猶あの建物は本年の秋まで
には片つけてしまいたい。東

社會教育委員、社會教育委員
公民館、學校施設の利用、通
信教育の六章五十七條からな
り、その中約半分近くは條文
が社會教育の根本的施設であ
る公民館に關して規定されて
居り、本法の重要な部分とな
してゐる事は注目すべきであ
る。

特別委員に村會の總
務部委員、教育部委
員を加え委員長を前
島村長とする
以上の経過を経て今日に及
んでゐるのであるが、まだ先
方と契約を結んだのもなく
買収價額も決定してゐるので

青年會の立場から
村民の皆様の中にはよく知ら
れてゐないかと思ひますが
村立圖書館は郡下有数の蔵書
を持ち其の利用者は小學生を
初めとして中、高校生、一般
青年から村民まで實に廣範圍
にわたつて居り圖書館の持つ
社會教育の重要性を考へる時
現在學校講堂の片隅に押し込
められ、しかも土間であつて
は如何にも情無い現状であり
まして、是非適當な場所へ移
轉したいといふ事は永年の懸
案になつてゐました所、たま
にこの建物を賣つてもよい
の事を聞き、しかも個人に
は賣らない、村の公共物とし
て使用するのならばよいとの事
で、私達としてはあの建
物はもつた電氣組合事務所
としての名残りのものである
し、圖書館を移轉した場合に
位置のいい、間取りのいい好
都合もあり、又圖書館とし
て獨占するのではなくて、購
入の際には今後新しく制定さ

關共に積極的な支持を賛成
を願へましたし、又婦人會も
全面的協力といふ力強いお言
葉を頂き、一般村民の皆々様
にも組長さんを通じて御協力
をお願いしたやうな次第であ
ります。

役場下の道路
完成す
石ころの多い狹隘な道で誠に
不便であつた縣道から役場へ
通ずる道路を改修する事は永
年の懸案となつてゐたが、今
回地元時又の絶大なる協力さ
村当局の種々なる援助によ
つて近代的な舗裝道路が完成
し面目を一新した、
(伊東)



社會教育の法

社會教育の必要は強調され
つゝ、法的には何等の根據を
與えられずにいたことは今に
して見れば法治國として寧ろ
可笑しかつた。我が國の無暴
な戰爭とその結果招來した敗
戰の原因が、一つには就學率
の上では諸外國に劣らないの
に、學校教育と社會教育の不
連結に依る一般の教養の欠除
の爲に健全な輿論を喚起し得
なかつたところにあつたこと
は誰しも認めるに異議がな

る、この意味において政府
を始め地方公共團體、民間團
體、識者等によつて、法の保
護の外にあつて社會教育活動
が展開され、その成果の相當
上つた事は喜ばしいことであ
る、公民館の設置を始めPT
A、その他民主的團體の結成
通信教育、學校の開放等々
之等は形式的にも實質的にも
千差万別あるにせよ、何等か
の意味で一般の啓蒙、學的生
活レベルの向上に役立つた事
は事實である。

勿論吾々として社會教育法
は満足なものではないが、こ
れによつてもかく社會教育
の体系が法律的に一應確立し
たところはその意義を認めら
れるのである。他面又各單行法の
制定の要望を中央に吾々の聲
を上げて進めるとともに、本法の
運用にその妙を得て社會教育

昭和二十四年度
所得協力補助員決定す
新しい本年度の補助員が決定
した
重税金の適正な合理化のた
めに奮闘されん事をお願いし
たい

村勢要覽の發行と
農家手帳の配布について
「村勢要覽」は昭和十八年度
限りで戰爭の爲中絶してしま
したが今年から復活して本年
度のものを過日各部落へ配り
ました。村民各層就中青年諸
君が有意義に活用下さる事を
切望します。

ナトコ巡回映畫
去る二十一日上映した東寶
の大作「戦争と平和」に引
續いて今後巡回予定の映畫
として

長野原 藤澤好吉 今村憲一
時又 伊原春男 伊原悦男
高木関 久保田經男
下平安徳 下平貞
林 順三 高島良雄
林 七郎 下平秀雄
上川島 長沼保治 小室重雄

○王 梅
○母 紅
○無決の一生
○ありませぬ。御時下さい

産業欄



竜丘農務 指導部

病虫害防除特報

八月に於ける病虫害について

一、稲穂病 肥料事情 本年の配給事情は

心算が完全によれてその後 下葉より黄変してくる

五日(二)日であつたので 幼虫の孵化が七月末日

ふ事になつた。 農地改革法で特に變つた点

收買渡をしない 主たる所得が農業以外の

小作関係の調整 小作契約の文書化による

土地改良法の制定 今後の國會で農地改革後の農

八月に於ける病虫害について

二、窒素病 濕田、紫雲英跡地、未熟堆

第一回 七月下旬 葉鞘腐敗

第二回 八月十日迄 蠶の摘採

不在地主の取扱のうち 自作地が不在になつ

農地調査法の改正 農地の移動演習統制

農地調査法の改正 農地の移動演習統制

農地調査法の改正 農地の移動演習統制

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

一、排水土用干の勵行

一、秋落を防ぐ

七、水稲に對する薬劑綜合防除

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

新しい農地委員の任務

農村弘報を参考に村の皆さんにお傳へしま

これは國の政策に支配さ

先頃農調委の秋冬作に對す

てはその中から一人當十坪

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

八月に於ける病虫害について

三、綿葉枯病 ヒメトビウン

威虫の最高飛來が七月一

現在農地改革を更に徹 底的に行い自作農法は引續

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

八月に於ける病虫害について

二、加里の補給

二、加里の補給

二、加里の補給

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

農地委員 八月十八日 選挙!

農地委員の選挙です

割當の公平化に對する一私案

先頃農調委の秋冬作に對す

歩としてその中から茶園一人

てはその中から一人當十坪

現も角も農民の責務は主食

農地委員の選挙です

良い村さよ農業經營をつくる

農地委員の選挙を行います

農地委員の選挙を行います

個人々々の生活と結びつき、其の力が結集して、経済的、文化的に村全体を豊にするもの、その活動は建物の中にもあるのではなく、田園にも、工場街にも、常に我々の生活と共にある。

「公民館」は

私達の生活の爲の文化施設です。又私達村人にまつての茶の間です。それに依り私達の教養を高め、村の産業の振興をはかり、村の自治の政治を高めてゆくの事です。

生活改善「婚儀改善」原案 舊來の酒入結納廢止か!

敗戦に伴ない、諸般の大きな變革がもたらされ、新憲法の施行、農地改革、農業協同組合の設置、公民館の設置等々未曾有の大改革が實施されるに至つた。しかし新日本建設こそ過去一切の封建性、因習を打破し、民主的、科學的精神の上に新らしい生活を築かなくてはならない。

先にとつて公使が我々日本國民に對し「日本國民は今迄自己の經濟能力を遙かに越えた生活をして来た」と言う警告を與えられた實情でもあり住み良い、明るい社會を作る爲、生活の改善を圖らなければならぬ。

この問題に就いては何人も何んかしなければと悩み、苦しむつゝ、之に對する善後策を講ずる事も出来ず、來たのは愚か、派手に社會的悪化

下伊那統一規約原案

- ① 婚儀が改善
 - (一) 健康診断書交換、婚約と同時に取交す、權威のある診断書を交す意味から原則として保健所の診断書と交換すること
 - (二) 婚約祝、簡素な内祝として祝儀は金壹千円以内とするを兩者取交すこと、物品の場合にしても右金額を越さないこと
 - (三) 舊來の酒入結納は廢止する
- ② 支度
 - 新郎 背廣服を主体とし、和服の場合新調をせぬこと
 - 新婦 振袖を廢し、新調を廢し、各村にて協同調製がのぞましい
 - 隨行者は新郎新婦に準ずること
 - 髪 自由とする、但し洋髪が望ましい
 - 四調度品 衣敷は當座二、三年程度の必要品に止め長持は廢し、算笥を持参する場合一棹を限度、布團(夜具)一組、座布團二枚を限度とする、訪問着、エバ羽織は廢すこと
 - 對にせぬこと
 - (四) 披露
 - 一 挙式は簡素に嚴肅に行ふこと
 - 一、式の盃は夫婦盃に止め、盃後夫婦家族間の円満を繁榮を計ること
 - に精進する意味を含めた誓約書を新郎、新婦共に郎讀すること
 - なるべ

戸籍届出について

- ① 出生届
 - 一、出生届 出生届は子の生れた日から十四日以内に必ず届出をして下さい(戸四九)若し十日のときはその翌日が最終日であります(大三、一一、一七、民一一三二二号)
 - ② 届出地 出生の届出は出生地とすることを要する、但し汽車その他の交通機関の中で出生があつた時は母がその交通機関から降りた地で届出ねばならない(戸五一)
 - ③ 命名 子の名には常用平易な文字を用ひなければならぬ(戸五〇)

振舞、菓子等廢すこと 近隣婦人方等を招き茶菓其の他招待をせぬこと 一、結婚當日籍を持参し同時に入籍すること ② 其の他が改善 目下各村の意見を研討審議中であり、近く原案が成る予定である ③ 今後の實行方策具体案に附いては各村の意見をとりまじめ、方法決定を見ることになつた



農事休みの第一日目 關島昭光

農繁休みの第一日目の朝、小鳥は僕よりも先に起きて僕を呼び起すかの様に、緑の中に囀つて居る。氣も心も晴々として外へ出て朝の空気を胸に吸ひたい。朝風がそよよ吹いて来て、僕の顔をそよよ吹いて来た。もう一べん僕はこの大氣を胸に吸ひたい。太陽はもう二間ぐらゐの高さに昇つて居る。それが僕を寝坊小僧さんよんでくれるかのように見えた。

多額な事業税(八月前期分)を納税することになつておま、従つて本村に関する事業種目を申せば 第一種事業者は 物品販賣業、製造業、請負業、旅館業、料理業、運送業、第二種事業者は 農業、畜産業、水産業、林産業、その他これらに類する事業とする

父が出て行つた後、半時間ぐらいたつてから出かけて行つた。坂の下まで走つて行つた。けれども、そこまで父はまだ来て居なかつた。道ばたにまつている人、人が通るからぼんやり待つて居るのも、それくらいから、人の通らない少し上の方の山のきわの川のそばの石に腰かけて待つていた。いくら待つたがなかなか来そうもない。こんなことならもうすこしおそく出て来て、むみやたらにそこらあたりの草をちぎつて川の中に流した。草は石にぶつつかつたり、波にゆられて上つたり、下つたりしながら下の方に流れて行く。

特別所得税第一種該當者は特別所得税第二種該當者は特別所得税第二種該當者は以上主旨に對し昭和二十三年度の一年分の所得額に對して

第一種事業該當者には百分の七、五、第二種事業該當者には百分の五、特別所得税第一種該當者には百分の四、特別所得税第二種該當者には百分の五が課せられる事になつてゐますから、各位の納税額も

多額になる事はお互が考へねばならない事と思ひますから皆様に課せられた税に對し十分なる御理解と完納を御願ひします。

農繁休業がすんで本格的な夏になつた。運動場は中學の野球とバレーの選手練習が張切つて見える。廿三日竜峽支會野球球技會が行なはれた。排球はリーグ戦で得点五五に惜しくも第二位となり、野球は準決勝に強敵竜江を破り決勝戦となつた。

此の日小學校は同學年會が行なはれ、可愛らしい一年生の風車研究がなされた。廿五日いよいよ野球の決勝戦。竜丘村下堅、三回目に我々の勝利となり、本年度支會の野球球技會の榮冠は竜丘中學校の選手の上に輝いた。今回の榮譽も一えに父兄各位の一方ならぬ御聲援の賜に深く感謝致す次第であります。

図書館に對する所感

図書館の中に入る度に胸を針で刺される思いがする。而も彼等は此の行爲を以て、何等恥する所なしとして居る。書籍は係の方が修理する甲斐も無きくらいにいためられてゆく。利用される各自が取扱を出来るだけ氣を付けて下さつたら、こうもいたまないと思ふ。君だけ一人が読めば良いのではない、さうか公衆道徳をわきまえて頂きたい、皆お互ひに公衆の爲を思ひ氣持良く讀書が出来れば、注意しあひたい、そして自分の書籍以上に大切に丁寧に取扱はれたい、讀書をする事は我々の心、精神の榮養をこる事、文化の向上も産業の發展も基礎は己の充實である。心、新時代に對する認識を深め、郷土發展に、ひいては文化道徳の昂揚の爲図書館充實に全幅の御支援と御協力をお願い致します。

購入圖書目録

書名	著者
次郎物語(上中下)	下村湖人
これからの作法と交際	堀内敬三
吾等何をなすべきか	原久一郎
性、生活	理想社
女性と教育	西坂志保
風と共に去りぬ	(上下) 大久保康雄
ささめ雪(上中下)	谷崎潤一郎
これからの畜産	農政評論
農民と榮養問題	石井金之助
生きぬく悩み	山本茂美
誘惑	新道兼人
異議讀本	古谷春吉
糞肥の栽培と施用法	山本義彦
食用作物相談	岩槻信春
女性寶鑑	前波伸子
破戒	島崎藤村
幸福を求めて	串田孫一
新しき人間象	大島康正
小説天皇	長田幹彦
子供に自由を	霜田静志
失われた青春	竹山道夫
長崎の鐘	永井隆
哲學小辭典	及川輝雄
ハイン詩集	大木悳夫
谷間の百合(上下)	宮崎若夫
或自殺者の手記	秋田滋
ある女の生涯	島崎藤村
養鶏家相談	伊藤健吉
女醫の診察室	常安田鶴子
米ノ戦わば	河上清
藤村の戀愛と故郷文學	

土壌肥料相談

川崎一 松木五郎 齋藤民次郎 森喜一 花山信勝 片山泰雄 大久保康雄 青木誠四郎 新屋嘉章 川路柳虹 丹下左膳(一、二、三卷)林不忘

西澤選手のバット

木下右治

飯田驛で電車に乗ると修學旅行と思はれる學生の一隊がいた。聞いてみるに且開中學の三年生で京都からの歸途だという。

文藝



「生徒が体操の時間さうさうに野球をやりたいが、それがよいでしょうか」と聞いた。西澤選手がバットを握りしめる。観衆はいつせいに拍手した。西澤選手は「西澤」という聲が観衆のなかのどこからか響いた。何万かの観衆の眼は西澤選手に集中した。第一球ストライク。みのがした。慎重なホームで投手は第二球を投げた。あ打った。カインという音がした。球は左翼の方へ飛んだ。伸びる伸びるグングン伸びる。白い球は左翼の観衆席の中に消えた。観衆の聲はさつさつ上った。球の行方集中されていた観衆の視線は再びダイヤモンドに歸つた。西澤選手は悠々走りつてホームインした。観衆の拍手は再び上った。

今日一日を有意義に過そう

夜が明ける

はちきれそうな空気が

白露を一ぱいた、えて成長する野菜

私の心を緊張させる朝

新鮮な空気を吸う

今日一日の出發

朝顔が二輪大きく笑つてゐる

木陰

たんぼの花が

さいはるる

黄色な花が

お池にうつり

ゆらゆら

ゆれてゐる

ひごいがういて来て

パタリと花のかげをのむ

その度に

波もんが大きくひろがる

今日一日を有意義に過そう

夜が明ける

はちきれそうな空気が

白露を一ぱいた、えて成長する野菜

私の心を緊張させる朝

新鮮な空気を吸う

今日一日の出發

朝顔が二輪大きく笑つてゐる

引揚援護事業について

引揚援護事業について婦人会や青年會に協力を求めている村當局が、今年の引揚者の大半が赤い引揚者になつてゐるのに驚いて、優しい愛情を持つ婦人会や健康なる(?)青年會に又頼んでゐるさか。

経済九原則の適用によつて

敗戦インフレと土地改革で、や、もすると小所有者の氣持になつた百姓も、初めて協同化以外に生きる途の無い事を身をもつて経験する段階に來てゐる。而しそれであつて現實はいよゝ個人主義となり排他的になつて協同化を阻止するやうな状態だ。

長石寺でも開善寺でもつり鐘が出來て、のどかに鐘の音がする。

左前になつてゐる村人の財布は毎日カネの音が消へてゆく。

舊電氣組合事務所を買ふか買わんで村内にセンセイヨンを巻き起し、之に附随して現在の公民館が批判され、さやかく言はれてゐるやうだ公民館をほんごに自分達の爲になるものにするために、今ははれてゐる批判を生かしたいものだ。

◆野球、排球大會

期日 野球八月十五日、十六日

大講演會

期日 八月二十三日予定

講師 早大教授大山郁夫氏

演題 「自由民權運動の現代的意義」 入交氏

「世界情勢と日本民主化の前途」 大山氏

誤植訂正

第二号に公民館前が洩れていましたから記載致します

常任委員 岡島耕平

情報部委員 熊谷政平

体育部委員 吉川偉人は古川隼人の誤り、藝能部委員 岡島雄は岡島龍雄の誤り。

◆野球、排球大會

期日 野球八月十五日、十六日

◆公民館